

# 日本聖公会 管区事務所だより

日本聖公会管区事務所  
162-0805 東京都新宿区矢来町65  
電話 03(5228)3171 FAX 03(5228)3175  
発行者 総主事 司祭 三鍋 裕

## 「総論」に隠されている個と向き合う感性を

管区事務所総主事 司祭 ローレンス 三鍋 裕

長崎で行われた「キリシタンと被差別部落」という研修会に参加しました。色々な宗教団体からの参加者がありましたが、正直に言って短時間では問題を整理するのが難しいテーマでした。キリシタンの歴史も関係しますから、他の宗教の方には用語からして難解のようでした。たとえば「浦上四番崩れ」。明治初期になってもキリスト教信仰は禁止されたままの時代に、キリシタンが発覚し3400人余りが流罪になった事件です。信仰が崩れたのではなく、発覚したという意味です。身分差別のゆえに当時の司法権力の末端を担わされていた人々がキリシタンを摘発する側に立った、いや立たざるを得なかった不幸な事件です。

同時に江戸時代初期には、キリシタンは差別されている人々の間で受け入れられた事実もあります。キリシタンの処刑を強要されたとき、自らの信仰のゆえにこれを拒み殉教の道を選んだ人もいます。キリシタンになると自分の村に住んでいると発覚しますので、差別されている人々の中にかくまってもらったこともあります。今回の講師のお一人である仏教者の方は「私のお寺は決して由緒あるお寺ではありません。しかし長い迫害の間、キリシタンの人々をかくまってきた歴史を誇りにしています。」と話しておられました。キリシタン信仰を察知しながら檀家として扱い、かばってきたということでしょう。仏教者の、命に対する慈しみを感じさせられるのです。人としての存在に対する感性の大切さを強調しておられました。

難しいテーマで上手に報告できませんので、研修会で読まれた詩をご紹介します。

『大漁』 金子みすず

あさやけ こやけだ 大漁だ

おおばいわしの 大漁だ

浜は 祭りの ようだけど

海の中では 何万の

いわしの とむらい するだろう

## 会議・プログラム等予定

(前回報告以降追加)

および1月25日以降)

2006年12月

11日(月)聖歌集改訂委員会(大宮)

2007年1月

12日(金)正義と平和委員会

29日(月)~30日(火)文書保管委員  
委員会・作業会

29日(月)~30日(火)聖歌集改訂委  
員会(京都)

2月

2日(金)ウィリアムズ主教記念基金  
基金委員会(立教)

5日(月)主事会議

5日(月)年金検討特別委員会

6日(火)~7日(水)人権担当者会  
(管区事務所および狭山)

7日(水)常議員会

11日(日)~12日(月)各教区青年担  
当者の集い(名古屋)

15日(木)祈祷書等検査委員会

15日(木)宣教150年記念礼拝実行  
委員会

20日(火)管区共通聖職試験委員会

26日(月)収益事業委員会

26日(月)~27日(火)文書保管委員  
委員会・作業会

27日(火)~3月1日(木)主教会

3月

5日(月)主事会議

5日(月)教区制改革委員会

5日(月)~6日(火)日韓協働プロジェ  
クト

6日(火)聖公会/ルーテル教会協  
議会(ルーテル市谷セン  
ター)

7日(水)正義と平和委員会

15日(木)聖公会/ローマカトリック教  
会合同委員会

19日(月)~20日(火)文書保管委員  
委員会・作業会

<関係諸団体会議等>

1月31日(水)

聖公会生野センター理事会

2月1日(木)

NCC常議員会

この作品は、総体としての浜の賑わいの中に、個としてのいわしの命と、その命を取り囲む命を感じ取る感性を求めているのではないのでしょうか。また良寛さんのお話もありました。「良寛の子ども好きの話が伝えられているが、(貧しさのゆえに)信州・上州に売られていく子どもたちと遊んでやることしか出来ない深い悲しみがあったということを私たちは忘れてはならない」。総体としてはほのぼのとするような絵の中に、個々の悲しみを感じ取ることでしょうか。

「総論賛成・各論反対」というとずい印象になりますが、「総論反対・各論賛成」というのはないのでしょうか。総体としては仏教者としてキリシタンに相対する立場でありながら、個々のキリシタンの命に慈しみを禁じえなかった豊かさを感じさせられるのです。違う立場にありながら、キリシタンの命を肯定しているのです。

被爆地浦上を訪れました。原爆が戦争終結を早めた、結果として犠牲を少なくしたという総論があります。戦争ですから総論として当時の日本を否定したのは止むを得なかったかもしれません。しかし犠牲になる名もない無数の各個の命、小さな人生、小さな幸せに対する慈しみ、といった肯定はなかったのでしょうか。

アメリカという総論、イラクという総論、ありと

あらゆる総論、価値観の多様性と言いながら賛成・反対の総論がぶつかり合って争っています。犠牲者合計何名と簡単に報じられますが、それぞれに人生と家族があるのです。その悲しみに共感してこそ、合計数の恐ろしい意味を実感できるのではありませんか。世の中は一人ひとりの人生が積み重ねられて存在しています。私たちが目と心に向けなければならないのは総論ではなく、一生懸命生きている一人ひとりの命、人生ではないのでしょうか。

もう一つ、この研修会の講師の言葉を紹介させていただきます。『大きな魚と小さい魚との間が埋まらない悲しみ、「共に生きる」とは自分の隣にいるものに眼差しが向くということ、まわりの不幸せや涙に自分が揺さぶられるということ、そして大きな魚としてしか生きられない自分に出会うということです。』

日本人という飾り、アメリカ人という飾り、イラクの何々人という飾り、強さと弱さの飾り、富と貧しさの飾り、老齢と若さの飾り、自分が信じる正義という飾り、すべての飾りを捨て去って一人の人間として一人の人間に向き合い、喜びと悲しみを共有するときに新しい友が与えられると思うのです。私も感性を大切に思っています。

## 主事会議

第56(定期)総会期第5回 1月10日(水)  
主な協議

1. 海外宛協力金・支援金等送金リストの確認
2. 総主事・主事の退任・就任時の引継ぎ書について
3. ホームページ作成について  
次回以降の会議

2月5日(月)、3月5日(月)

『日本聖公会法憲法規』(2006年10月31日発行)の訂正とお詫び

『日本聖公会法憲法規』(2006年10月31日発行)に下記の誤りがありました。訂正してお詫び申し上げます。

p.32 法規109条第3項

(正)信徒代議員の任期は、選挙が行なわれた年の翌年の1月1日から12月31日までとする。

(誤)信徒代議員の任期は、選挙が行なわれた年の翌年の4月1日からその翌年の3月31日までとする。

## 《人 事》

北関東教区

聖職候補生 テモテ鈴木育三 2007年1月6日 執事に按手される。

東京教区

執事 シモン・ペテロ上田憲明 2007年1月20日 司祭に按手される。

執事 ハンナ石坂みゑ子 2007年1月20日 司祭に按手される。

執事 ビード李民洙 2007年1月20日 司祭に按手される。

執事 グレース神崎和子 2007年1月20日 司祭に按手される。

京都教区

ダニエル鈴木恵一 2007年1月1日付 日本聖公会聖職候補生に認可する。

司祭 イザヤ浦地洪一 2007年3月31日付 聖アグネス教会牧師の任を解く。  
定年により退職とする。

司祭 ヨシュア文屋善明 2007年3月31日付 西大和聖ペテロ教会牧師の任を解く。  
定年により退職とする。

司祭 ダニエル大塚 勝 2007年3月31日付 京都聖ヨハネ教会牧師の任を解く。  
2007年4月1日付 聖アグネス教会牧師に任命する。

司祭 バルトロマイ三浦恒久 2007年4月1日付 京都聖ヨハネ教会の管理を委嘱する。

執事 マルチン韓 相敦 2007年4月1日付 大韓聖公会ソウル教区からの宣教協働者  
として受け入れる。

京都聖ヨハネ教会牧師補に任命する。

主教 ステパノ高地 敬 2007年4月1日付 西大和聖ペテロ教会の管理を委嘱する。

聖職候補生 マタイ出口 創 2007年4月1日付 主教ステパノ高地敬のもとで、西大和聖ペテロ教会において勤務することを命じる。  
司祭ヨハネ石塚秀司のもとで、高田基督教会において勤務することを命じる。

聖職候補生 ヨハネ荒木太一 2007年4月1日付 司祭パウロ北山和民のもとで、新宮聖公会において勤務することを命じる。

九州教区

< 信徒奉事者認可 > 2007年1月1日付 (任期1年)

(佐世保復活教会) 黒崎富佐子、長田泰子

(直方キリスト教会) 君原實

(小倉インマヌエル教会) 東美香子、石田和史、若松スミヨ、田中徳輝、平上千鶴子、  
ピーター・フリーボーン

(菊池黎明教会) 蒲池近江、高橋尚子

(鹿児島復活教会) 島紀夫、坂口義孝

(福岡聖パウロ教会) 秋山献之、有村元伸、大堀満子、外池圭二、藤井東秀

(福岡ベテル教会) 田中寛

## 共に行こう、この道を

ソウル教区司祭合唱団の来日公演が残したもの

司祭 柳 時京（ソウル教区、立教大学チャプレン、  
管区日韓宣教協働プロジェクト委員）

昨年12月7日から13日まで「ソウル教区司祭合唱団」の来日公演が行われた。管区正義と平和委員会・日韓宣教協働プロジェクトが主催、関東3教区生野センター委員会の支援、公演を受け入れてくれた東京・中部・大阪教区の後援で、東京立教学院チャペル・名古屋聖マタイ教会・大阪川口基督教会の3箇所で開催を行い、延べ450名ほどの来場者を記録した。公演の他に、東京では昨年10月の東京教区正義と平和協議会主催の韓国研修「オウルリム( 馴染む、和解、一致 )の旅」の参加者で発足した「オウルリムの会」のお骨折りで歓迎会が行われ、その他にもカパティランのクリスマス礼拝、聖三一教会での主日礼拝で歌の奉仕を行った。大阪では公演に先立ち、ガブリエル教会の創立者張本栄司祭の司祭按手50周年・逝去40周年という節目の時を記念し、日韓合同で追悼の礼拝を捧げた。

公演にお越しくださった日本の皆さんから「8名の司祭が目を合わせ、息をそろえて歌う姿、メロディパートに注意しながらも力強く歌う様子から、日常的なチームワークが元となっている協働牧会のスタイルを感じた」「音楽の果たす役割は大きい、心のハーモニーはすべての根源だと再認識した、感動的なイベントとして心に残る」「神の正義と義による平和を祈る私たちの心を代弁してくれた素晴らしいコンサートだった」などの感想と共に、チャプレンを含めた9名の司祭が1週間以上不在になることが可能という、ソウル教区の聖職層の厚さに羨望の声も上がった。

司祭だけで構成された合唱団でありながら、歌のレベルや公演内容で好評を博した今回の来日公演は、コンサートを通して日韓の教会の

信仰の交わりを図ると共に、公演の入場料収益や合唱団のCDの売り上げを生野センター支援のために奉獻するという目的も併せ持っていた。何よりも、日韓の協働宣教の課題として生み出された「生野プロジェクト」への関心を改めて共に確認したことに大きな意味がある。ここに、ガブリエル教会での金根祥司祭( 日韓宣教協働プロジェクト委員長、司祭合唱団チャプレン )の説教の一節をご紹介したい。「皆さんが聖職であれ信徒であれ、聖公会のメンバーであるか否かなど、或いは韓国人であるか否かなどは全然問題になりません。今、神様からの呼びかけがあって、そしてそれに応えて神様の言葉を実現する奇跡がまさに皆さんにかかっている、ということをお伝えしたいのです。張先生は神様のみ言葉がむなし言葉にならないように、み言葉がみ言葉になるようにするため、福音を真の福音にさせるため険しい時代を堂々と生きておられました。今度は私たちの出番です。私たちがしなければ誰もする人はいません。共に行きましょう、この道を。険しい道ではありますが、肩を組んで共に行きましょう。」

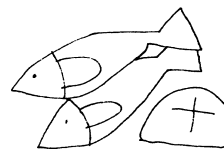
この企画準備の打ち合わせで3教区を公演場所として選んだのには一つの理由がある。日本聖公会の宣教協働者として韓国から現在8名の宣教師が来日している。それらの宣教師が勤めている教区を訪ねて韓国からの教役者を応援し、新たな時代を迎えた日韓の宣教協力の意味を再確認するというのが願いだっただ。最初は東京・中部・大阪だけでなく、宣教師が派遣されている京都・沖縄まで訪ねたいとの希望があったのだが、今回は3教区での公演と、京都での一日の日程だけになった。

今回の来日公演が、日韓の両聖公会が積み

重ねてきた過去20年間の交流の歴史を踏まえ、今後もしっかりと肩を組んで共に賛美の歌を歌いながら、私たちへの神の呼びかけに共に応えるための新たな兆しの歌声になることを心から願っている。

心に響く平和のメッセージを素晴らしい歌で伝えてくれた司祭合唱団に感謝し、今後の活躍への加禱を願うとともに、公演と滞在などの

面で司祭団を温かく迎え協力して下さった各教区の皆さんに、この紙面をお借りして心から感謝申し上げたい。



## 世界聖公会エキュメニカル関係常置委員会・ セーシェル会議報告

司祭 西原 廉太

昨年12月2日から9日まで、「世界聖公会エキュメニカル関係常置委員会」( IASCER )が南インド洋のセーシェルで開催された。この委員会は、1998年のランベス会議で設置が決議されたもので、世界聖公会( アングリカン・コミュニオン )の中で進展する教会間対話を中心とするエキュメニカル諸関係について、その可能性と諸課題を検討し、場合によってはアングリカニズム( 聖公会神学 )の基本的視座と齟齬が発生しないように調整する目的が与えられている。

私は、昨年のマルタ会議以来、委員に加えられており、今回も、現在のアングリカン・コミュニオン内外の鼓動を肌身で感じることでできる貴重な経験をさせていただいた。会議の詳細な内容については『聖公会新聞』等で報告させていただく予定であるので、ここではセーシェル会議で取り扱われた事柄について簡単に報告しておきたい。中心的に取り扱われた課題はもちろん、聖公会と他教派との教会間対話をめぐって、である。ローマ・カトリック教会、ルーテル教会、正教会諸教会、復古カトリック教会、メソジスト教会、バプテスト教会、改革派諸教会、ペンテコステ諸教会、メノナイト等々、現在、アングリカン・コミュニオンが対話関係にある教会は数多

く、とりわけカトリック、ルーテル、正教会間対話の層の厚さと進展には驚かされる。

今回のセーシェル会議では、エキュメニカル対話関係のみならず、現在、世界聖公会が直面している諸課題についての議論にかなりの時間を割いた。実はこれらの諸課題は、聖公会内だけの問題ではなく、エキュメニカル対話にも大きな影響を与えているからである。今般のアングリカン・コミュニオン内の混乱を整えるために、「ランベス委員会」が構成され、報告書『ウインザー・レポート2004』が発表されたが、この『ウインザー・レポート2004』の中で特に重要な「聖公会契約」( Anglican Covenant )と題された提案について、それがアングリカニズムの神学や伝統に照らして相応しいものなのかをめぐって、セーシェル会議でも激論が交わされた。

また、その他、2008年ランベス会議の意義と方法、女性の主教職、ユークリットにおける物素をめぐって、等々についてもさまざまな角度からの検討がなされた。いずれの課題も、アングリカン・コミュニオンが「コミュニオン」であり続けるために、忍耐強いコンセンサス形成が求められているものばかりである。現在の世界聖公

会にはさまざまな破れがあり、そのことを否定する者は誰一人としていない。しかし、その破れを痛みとしながらも、「神を愛し、互いを愛し合いなさい」という教えに徹底的に従っていこうとする、大小さまざまな苦闘が、私たちのアングリカン・コミュニオンの中にあることを、日々痛感する今回の会議であった。

次回の世界聖公会エキュメニカル関係常置委員会は、今年の12月中国、南京で開催される予定である。



#### パレスチナ難民の子どものための献金

多くの教会・教区等から「パレスチナ子どものキャンペーン」「日本国際ボランティアセンター」等パレスチナ難民の子どものための活動を行っている団体へ献金がささげられていることに感謝しています。これらの団体はパレスチナ難民の子どもたちのためにさまざまな支援活動を継続して行っています。昨年献金をして頂いた教会・教区の方々には引き続き支援の継続をお願いいたします。また、支援開始を考慮していただいている教会・教区があればぜひ積極的に参加してください。

活動は「パレスチナ子どものキャンペーン」に関しては、<http://www32.ocn.ne.jp/~ccp/>

「日本国際ボランティアセンター」に関しては、<http://www.ngo-jvc.net/> で見ることが出来ますので、ぜひ一度ご覧ください。

献金は直接これらの団体に送金して頂くか、献金先を指定し管区に送金していただければ、まとめて管区から送金致します。また、毎年受苦日の信施金をエルサレム教区に送っていることを付け加えて報告致します。

(管区事務所渉外主事 八幡真也)

2007年2月11日

### 「ハンセン病問題啓発の日」の祈り

第55(定期)総会決議第30号「ハンセン病問題啓発の日を設け、ハンセン病問題への理解が深まるために祈る件」

毎年顕現後第6主日をハンセン病問題啓発の日とし、その日にはそれに相応しい祈禱を捧げる。顕現後第6主日がない年は大斎節前主日の直前の主日。

慈しみ深い神よ、み子イエス・キリストは重い皮膚病(ことにハンセン病)を患った人びとを癒され社会の中で生きることを、示してくださいました。しかし、ことにハンセン病への偏見と差別のため、完治しているにもかかわらず、今もなお、共に生きる社会が実現できないことに痛みを憶えます。どうか、すべての人びとが、この病気の事実、また回復者の現実など、ハンセン病をめぐる問題を理解することによって、み心にかなう社会を建設することができますように。多くの苦しみの中にある人びとの友となり歩まれたみ子、わたしたちの主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン